

**令和7年度 第1回こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会
会議録**

日 時	令和7年5月2日（金）午後3時30分～午後4時30分
場 所	こまきこども未来館 会議室（ラピオ2階）
出 席 者	<p>【委員】5名（※敬称略） 梶田光俊、水野一哉、外山貴彦、林文通、村田吉隆</p> <p>【事務局】4名 事業推進係長、係員、NPO 法人10人村（受託者）（2名）</p> <p>【傍聴者】なし</p>
会 議 資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会名簿 3. こまき少年少女発明クラブ指導員名簿 4. こまき少年少女発明クラブ令和6年度活動報告（資料1） 5. 発明クラブ通信（資料2） 6. 令和6年度前期クラブ員アンケート（資料3-1） 7. 令和6年度前期クラブ員保護者アンケート（資料3-2） 8. 令和6年度後期クラブ員アンケート（資料4-1） 9. 令和6年度後期クラブ員創意くふう展アンケート（資料4-2） 10. 令和6年度後期クラブ員保護者アンケート（資料4-3）
会 議 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長あいさつ 2. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度の活動実績報告について 3. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和7年度の活動について (2) 今後の予定について
会 議 要 旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長あいさつ <p>楽しい活動が次々と展開されると、こどもたちは喜ぶ一方で大人は苦しくなってくる。その苦しみを共有しながら準備をしていただいているが、こどもたちが楽しそうに活動している姿をみるとエネルギーをもらえる。そのような活動が展開できると良い。</p> 2. 議題(1)令和6年度の活動実績報告について <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は主体性が不足していた、良いものを追求する熱意が少なかった、という課題が残ったことから令和6年度は「課題をさがす！挑戦する！解決する！」という目標に変更した。合言葉は変わらず「とりあえずやってみよう！」。 ・発想を自由にひろげて作品をつくり上げていく力を伸ばしたいという考えもあり、連続的な活動となるスケジュールにした。完成品は保護者に見学してもらったり、未来館で遊ぶこどもたちにフィードバックを得たりする機会を設けた。前期の活動後は任意参加の解体作業日を設定し、こどもたちが自ら片づけた。中には気に入った作品を持って帰る子の姿もあった。 ・一般の方にも活動を知っていただけるよう前期と後期の間に単発の公
事務局	

	<p>開授業を実施。後期のクラブ員の応募に繋がることも期待し、『片手で持てる食器容器編』をテーマとして、具体的な問題に対して自分たちがどう解決していくかを話し合いながら活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に引き続き、地元企業による講義や資材提供、サポートのほか、近隣高校の生徒にもアシスタントとして協力をいただいた。 ・後期の活動では初めてクラブとして創意くふう展を見学。参加は12人。他市町村の作品を実際に見て、触って、体験することができ、想像以上に子どもたちが楽しんでおり、「時間が足りない」という声も多くあった。 ・会費は材料費としてすべて使い切り子どもたちへ還元。自由に記録ができるよう、1人1冊ノートを配布しており、そのノートを使って自分の想像をふくらませている子もいた。 ・過去の発明クラブから続いて参加している子が、初参加の子へ材料の場所などを教えている姿を見ることができた。 ・発明クラブ通信をWEBで公開。クラブの参加者でなくとも気軽に見ることができるようになっている。 ・活動終了後はクラブ員、保護者に対してアンケートを実施。クラブ員のアンケートでは、周りとの協力したモノづくりや課題に対しての試行錯誤を楽しんだという回答がみられた。仲間と一緒に作ることの葛藤や不満、指導員との関わりを楽しむ様子を家庭で話していたことも保護者アンケートによって判明。保護者アンケートにおいて早い時間に終わることを求める回答があったこともあり、令和7年度は15分前倒しをし、14時15分から16時15分の活動へ変更する。 <p>《質疑応答》</p>
水野委員	<p>昨年、「やっぱり大人ってすごい！」と思わせられると良い、単発ではなく連続的な、と話していた中で、指導員の関わりが良かった、や、意欲が続いたという話があがってきているのは、わずかな間にクラブ自体が進歩しているように感じてうれしく思う。</p>
外山委員	<p>外に行って他の人の発信を見ることができるのはとても良い機会。アンケートにも「人の作品を見ることも学びになると気付けたようだった」とあり、とても良い取り組みだと感じる。</p>
事務局	<p>年少の参加者も多く、集中が持たないのではと心配していたが、もっと見たいという中引き上げてきた形になった。そのあとの活動にも良い影響があったように感じた。</p>
村田委員	<p>アンケートで「指導員目当てで参加していた」という声があったことがとても印象的。大人と関わる機会というのはそうあるものではないので、良い経験をしたように感じる。</p>
事務局	<p>これまでもこまきこども未来館のワークショップなどで関わりはあった</p>

梶田委員長	<p>が、そういった理由があったことは我々もアンケートを通じて知った。</p> <p>『創意くふう展』に参加した子の保護者アンケートでこどもの気持ちの変容が良くわかる。保護者が実際にそういう姿を見ることで、これからの参加も増えてくるのではないかと思う。</p>
林委員	<p>指導者の役割分担も難しいと思うが、個人で行うものと、チームで行うものが同時並行で存在してもおもしろそう。発明協会の主催に『学生児童発明くふう展』というものもある。そういったものに作品を出して認められていくという実績をつくるのも良いと感じる。去年の受賞作品にプログラミングがあった。何らかの形でそういうものがあったとしても良いのではないか。</p>
事務局	<p>継続したクラブではないことや、企業から協賛をたくさんいただいている状態ではないこともあり、すべてを落とし込み切れない部分があるが、子どもたちの『創意くふう展』での反応をみるとそういうことも出来たら良いように感じる。指導者講習会で他市町の指導員と話す機会があり、提出しているクラブでは提出することが前提になってしまい発想の裾野が狭くなってしまっているという声もきいた。うまく両立できるよう、今後の指導者の増員にも期待して高校生などに声をかけている。</p>
梶田委員長	<p>発明クラブのメンバーに出展の案内は実施しているか。発明クラブの活動をきっかけにやってみたいと感じた子にその案内をしてあげられたら次へのステップとして繋がるように感じる。</p>
事務局	<p>作品の提出期限があり、今の活動方法では期限に間に合わないため案内していない。その中で存在を知ってもらいたい、自分たちも目指していけるカリキュラムにしたいということもあり、令和6年度に見学という形をとった。</p>
林委員	<p>完成した作品を翌年度に提出することは考えているか。</p>
事務局	<p>できればそういう作品が生まれたら良いなという思いの中で令和7年度の課題設定をした。</p>
林委員	<p>発明は課題探しの課題が大切。自分の困りごとと言われると難しいが、他人の困りごとであれば見つけやすいのではないか。他人の困りごとの中から何か課題を見つけて、自分でやってみたいと思うように持っていくのもおもしろそう。</p>
水野委員	<p>うまくいった時は人助けの方がうれしいかもしれない。</p>

事務局	<p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期の最終的な申込人数は14人。そのうち、小学5年生が最多で6人、市外からの参加が3人。 ・前期は初回に保護者の方へ発明クラブの方針を伝えるオリエンテーションを実施予定。その後は前回の会議で報告した計画通り「卵を守るパッケージ作り」「身近で役立つ防災グッズを作ろう」「ショールーム見学」という流れで7回にわたって活動。 ・「卵を守るパッケージ作り」は引き続き地元企業に協力を得ながら、令和6年度とは条件を変えることで課題を難しくし、「身近で役立つ防災グッズを作ろう」では『フェーズフリー』の視点で、製作をする予定。「ショールーム見学」ではモノづくりの企業を見学することでこどもたちがなにか立ち返る機会になればと考えている。 ・後期も前期同様オリエンテーションからスタートし、「弁理士による知財授業」「生活に便利なグッズを作ってみよう」と活動予定。途中で『創意くふう展』の見学も実施する。活動が終わった際に1週間程度作品を展示する機会を設けたいと考えている。「生活に便利なグッズを作ってみよう」はまだ協力いただける企業を見つけられていない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回こまき少年少女発明クラブ開催の案内 日時：令和7年5月11日（日）午後2時15分～午後4時15分 場所：こまきこども未来館体験ひろば（ラピオ3階） ・第2回こまき少年少女発明クラブ企画運営委員会開催の案内 日時：令和8年2月ごろ（予定） 場所：こまきこども未来館（予定） </div> <p>《質疑応答》</p>
村田委員	<p>ショールーム見学に行く企業はお客様のニーズに合わせて商品を製造している会社。課題解決という視点でも何か協力を得ることができるかもしれない。</p>
水野委員	<p>『手作りコンテスト』を開催している小売店に声をかけてみてはどうか。『安全性』『経済性』『社会からの要求』『環境への負荷』の視点をそれぞれ得点化してレーダーチャートで評価するのもおもしろそう。</p>
外山委員	<p>発明は、その発明品の「仕組みの権利」が重要。こどもたちの「アイデア」がすごい資材になるかもしれないので「つくる」まで達さなかったとしても「アイデア」を押さえておいてあげてほしいように感じる。</p>